

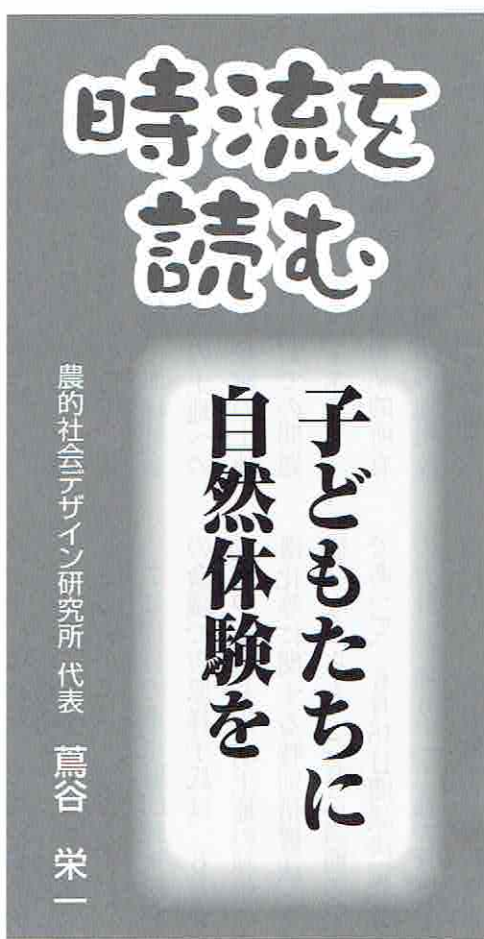
鶏を飼う保育園

この4月から自宅がある西東京市の自治会の役員をやっている。早々に飛び込んできたのが、地区内にある保育園で鶏を飼い始めたということ、その鳴き声による騒音や糞尿による悪臭発生が心配につき、騒音対策、悪臭対策を徹底するよう自治会として申し入れをしてほしいとの会員グループからの要望であった。正直なところ子どもたちが鶏を飼育するのは大事なことであり、また鶏の鳴き声が聞こえるのはけっこうなことではないかというのが私個人の考えではあるものの、会員の声を無視するわけにもいかず、できるだけ対策を講じてもらうよう申入書を作成して園長にお渡しした。保育園を見学させてもらったうえで、意見交換もさせていただいたが、騒音対策として雄鶏を排除して雌鶏だけの飼育にとどめていること、悪臭が発生しないよう朝夕方の2回、清掃を徹底させているなど、既に対策を講じているこ

とを確認することができた。そして今後ともできるだけの努力を払っていたただくことをお願いして退去した。

センス・オブ・ワンダー

この近くにある保育園は「どろ



レイチエル・カーソンが最も大事にした概念だ。自然の中で驚き・発見を経験していくことが大事であり、これが人間が成長していくにあたっての「原体験」なるということである。これを踏まえて、①はだしの徹底（足指で地面を捉える

広がる「森のようちえん」

これとは別途の「森のようちえん」をご存知だろうか。森や海や里山、公園も含めた自然環境の中で、幼稚園や保育園、託児所等の子育てを行うものだ。ヨーロッパで始まったもので、日本でも全国で1千を超える「森のようちえん」があるとされる。自宅を地域に開放して月1回、ちよつとした落語等や音楽を中心にしたお茶飲み話をする「つたやさんち」なる集まりを持っているが、ここに「森のようちえん」のお母さんや子どもたちも足を運んでくる。よく日焼けしており、子どもらしい自然の振舞いと同時に、キラキラした目と落着きが印象的だ。

重要な幼児体験・自然体験

「三つ子の魂百までも」と言われるように、小さい時にいろいろな体験、特に自然に触れる体験を積ませることがきわめて大事だ。大人たちは、こうした動きを外野から見ているのではなく、むしろ応援し交流していくことが求められる。

んこ保育園」であるが、実は会員から要望が持ち込まれてすぐネット上で調べてみて目を見晴らされた。コンセプトの中心にあるのが「センス・オブ・ワンダー」だ。農薬・化学肥料の恐ろしさを訴え、有機農業運動を導くことになった

力を育てる）、②異年齢保育、③機会を排除しすぎない（「汚い」「痛い」の体験も必要）という3つのこだわりを掲げている。この「どろんこ保育園」が北は仙台、南は福岡まで、全国で50近くも広がっているのにも驚いた。